

□議員名：岩本 信子

1 学校給食について

論点	9月議会で、教育委員会より4つの調理方式の食育観点から書面をもらい最終判断とすると言われたが答えはどうか。
回答	4つの方式で食育の優劣のレクチャーを聞く会は何回かあった。が書面はない。要求もしていない。市政説明会の過程で心証が少しずつ固まった。

論点	市政説明会で4つの方式を説明して、親子方式での署名が4,000人以上集められた請願に対し、親子方式はできないとの見解がでたが、市民へ伝えた情報についてどう考えたのか。
回答	市長が4つの調理方式を財政的な見地から実現、可能性を判断するために開催された。財政面以外の質問が多くあり意見として真摯に答えた。なお建築基準法上親子は難しいと一貫して述べているが、可能性を問われれば不可能ではない。

論点	旧小野田では親子方式ができているがどうか。
回答	建築確認申請が必要となる建物の工事がなかったので実現した。

論点	1センターと親子方式の建設費の差額で多くの子育て支援や高齢者福祉事業ができると施政方針にあるが、今の学校給食を守ることは子育て支援ではないのか。
回答	広い意味で捉えると学校給食も子育て支援となるが、そうすると教育全てが子育て支援になり区分上適当ではない。

論点	共同調理場の建設は条例設置ではないのか。
回答	給食センターを設置するには、条例制定が必要である。工事着工後に条例制定をする。

論点	他市では4000食規模で7000㎡となっているが、給食センター建設予定敷地面積5400㎡は適正かどうか。
----	--

回答	<p>市長：土地開発公社の土地で改めて買う必要がない利点はあるが、建つかどうか不安はあったが、教育総務課に何度も確認をした。</p> <p>教育長：他市では職員の駐車場も含まれている。これは隣地をどうにかして頂ける予想していたある程度内諾のもとに行っている</p>
----	--

論点	30年続く共同調理場事業にどうにかなるといふ計画でいいのか。最初からこの土地ありきで始まった計画ではないのか。
回答	そのようなことはない。職員の駐車場は隣接地で可能な状況だ。給食センター機能には不都合がない。

論点	財政健全化を心がけて、共同調理場建設を決めたことについて、もっとアウトソーシングを進めれば財源は出てくるのではないのか。
回答	関心はあるが、職員の処遇の問題がある。教育委員会も苦慮している。一步踏み出すことができない印象を持つが、教育委員会の考えを尊重する。

論点	市長は食育の大切さを理解されていると考える。財政負担を前面に出して市民に理解を求めているが、行財政改革を進めて給食センター建設の判断をすることはできなかったのか。
回答	教育委員会の意見に引きずられたのではない。判断する情報・知識・資料の提供を口頭で説明を受け市長の責任において決めた。現在の市の財政状況で、自校・親子方式とこだわる人は市の未来を本当に考えているのか疑問を持つ。

論点	市の子ども達の未来を考えて食を守ることを一生懸命していく。
----	-------------------------------